

「川床」で満喫 せせらぎ聞こえる春

釜川・桜まつりで初設置

デザインは宇大生

宇都宮市の中心市街地を流れる釜川に六日、満開の桜を楽しんでもらおうと、棧敷の「川床」が初めて設置された。十五日まで開催中の「釜川枝垂れ桜まつり」の一環で、来場者は風情ある演出にうっとりしながら、腰を落ち着けて桜をめでた。枝垂れ桜が満開とな

っているエリア約二十坪に、川の上をぶさぶさ形で土台を作り、テーブルを置いて約九十席が用意された。場所によって川面からの高さ

が異なり、低い席だと数十坪の位置で川のせせらぎを楽しめる。川床のデザインは宇都宮大の学生が担当した。「こゝは枝垂れ桜の隠れた名所。もっと釜川の良さを知ってほしい」。主催する宇都宮安藤英夫実行委員長（左）は、そう願いを込める。

釜川は地上から目に見える流れの下に、もう一つの流れがある二層式の治水構造になっている。「安全性の高



い釜川だからこそ、行政の許可を得るのが難

釜川の上に設けられた川床で、桜を楽しむ来場者ら＝宇都宮市で

しい川床が実現したと安藤さん。地元子どもたちがたてる抹茶や、ビールの販売もある。川床は七日も午前十一時～午後四時に開放する予定だが、雨天の場合は中止。推進機構のホームページで随時、開催の可否を掲載する。川沿いに設置されたほんぼりは十五日まで点灯する。

(内田淳二)